

2025 年 07 月 15 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【混沌とした中での円安】

混沌とした中で、ドル／円がじり高に推移している。

そして、クロス円での円安傾向も維持されています。

+++++

今週末には、日本の参院選挙が控えている。

様々な報道によると、自公与党は、参議院での過半数を維持することが難しい情勢のようだ。

この参院選で、自公与党が敗北する場合は、基本的には、マーケット（外国為替市場）は「円売り（ドル買い）」に反応する、と考えます。

ただし、一般論として、

「日本の政治は、外国為替市場で重要なテーマ（材料）にならない」といった傾向がある。

だから、参院選が終わり、少し時間が経過すれば、参院選の結果の影響力は弱くなる、と考えます。

+++++

トランプ関税に関しても、混沌とした状態が続いている、と考えます。

今月（2025 年 7 月 7 日）に、トランプ米大統領は、日本からの輸入品に対し、8 月 1 日から 25%の関税を課すと表明した。

この時点でのドル／円は、「ドル買い円売り」に反応した。

トランプ大統領は、8 月 1 日からの関税を、ほぼ最後通牒だ、と述べている。

しかし、「ほぼ」は、「確定」ではないし、トランプ米大統領の過去の言動を踏まえると、さらに交渉に応じる可能性も十分にあり得る。

つまり、トランプ関税が、米国経済に悪影響を与える可能性は高いし、米国の貿易相手国の

経済に悪影響を与える可能性も高いのだが、それが、始まる時期は、確定していない状況が続いている訳だ。

この不確実な状況を、マーケット（外国為替市場）の参加者は、漠然とした「ドル買い円売り」「クロス通貨買い円売り」の材料と捉えている、と考えます。

+++++

ウクライナ情勢にしても、トランプ米大統領の思惑通りには運んでいない。

トランプ米大統領は、ロシアのプーチン大統領との会談を経て、停戦に結び付けたかったのだろうが、ロシアが停戦に応じなかった。

それで、ロシアが 50 日間のうちに停戦に応じない場合は、「非常に厳しい関税」を課す、と表明した。

この件に関しても、決着は先日付であり、混沌とした状態が続いている、と考えます。

+++++

何もかもが、混沌とした中で、明確な答えが見つからないままの状況が、当分の間、続くのだろう、と考えます。

+++++

+++++

（2025 年 07 月 15 日東京時間 15 : 00 記述）